

授業科目名 (英文名)	総合ゼミ (Synthetic Seminar)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	4
担当教員	丸橋 裕	所属	看護学部 哲学系
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>医学的人間学 はじめの第一歩 人間学的医療への道</p> <p>医学的人間学 とは、20世紀ドイツの医者哲学者ヴィクトーア・フォン・ヴァイツゼカーが、自然科学的医学の限界を乗り越えるために、病む人についての人間学的な教えとともに提示した、新しい理論的・実践的な医学の構想です。彼の著作を導きとして、誕生と死との あいだ を生きる私たち自身が、他者とともにいかににより善く生きることができるのかを考えます。</p> <p>到達目標とDPとの関連は以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学的人間学とは何であるかを知り、医学と哲学との深い関係について考える (DP1)。 2. 「生きることの意味」、「私が医療者であることとはどういうことか」を考えつづけるための基礎を身につける (DP2)。 3. 誕生と死との あいだ を生きる人間をいかにケアすることが可能なのかについて考え、対話することができる (DP4)。 4. 自分自身が最も関心をもっている「生と死に関する問題」について哲学的に考察し、最終レポートを作成することができる (DP8)。 		
講義内容・授業計画	<p>第1部 医学的人間学とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ヴィクトーア・フォン・ヴァイツゼカーの生涯 2 医学的人間学の構想 3 ゲシュタルトクライスの理念 4 人間学的医療への道 <p>第2部 誕生と死との「あいだ」に求められるケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出生前診断と胎児緩和ケア 2 安楽死と尊厳死 3 スピリチュアルケア 4 自殺と自傷行為 5 神経難病 (ALS) が抱える課題 6 認知症患者と家族の生活 7 小児がん患者と家族の生き方 8 グリーフケア <p>第2部ではゼミ生一人ひとりがその関心に基づいて提起した問題をみんなで対話・討論して考えを深めます。上に上げたテーマはこれまで取り上げてきたテーマの実例です。</p>		
テキスト	V・v・ヴァイツゼカー『病因論研究 心身相関の医学』(木村敏・大原貢訳)、講談社学術文庫、1994		
参考文献	<p>ヴィクトーア・フォン・ヴァイツゼカーの翻訳文献</p> <p>『生命と主体 ゲシュタルトと時間/アノニユマ』(木村敏訳・註解)、人文書院、1995年</p> <p>『ゲシュタルトクライス 知覚と運動の人間学』(木村敏・濱中淑彦訳)、みすず書房、1975</p> <p>『病いと人 医学的人間学入門』(木村敏訳)、新曜社、2000</p> <p>『パトゾフィー』(木村敏訳)、みすず書房、2010</p>		
成績評価の基準・方法	対話における発言状況やプロトコル、提題の内容などを中心とする平常点と、最終レポートにより総合評価します。		

履修上の注意・履修要件	この世に生を受け、愛し、苦しみ、病み、老い、死にゆくこと 即ち、生きることの意味をふと立ち止まって考えざるをえなくなるあなたの参加を求めます。
実践的教育	該当しません。
備考	